

ばんけい

教育ほつとにゅーず

かわら版

こ みち  
教育の小径

No.98

2016 December

12月号

国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月のひとば

さん にん よ  
三人寄れば  
もん じゆ ちえ  
文珠の知恵

凡人といわれる特に優れたところのない者でも、3人集まっていると相談すれば、何かしらの良い知恵や考え方が出てくるものだという事です。

## 教師の生き方—オンとオフ—

- いま多くの教員は、夜遅くまで、時には休業日にも出勤して仕事をしています。多忙な毎日を送っているのが実態です。
- 毎日の仕事をできるだけ効率的に行い、「自分の時間」をつくります。趣味などを生かして、心と体をリフレッシュすることが大切です。

今月の  
記念日音の日  
(12月6日)

発明家のエジソンが蓄音機で録音と再生に成功したのが、1877年(明治10年)のこの日です。1994年(平成6年)に日本オーディオ協会が制定しました。

## 仕事が終わらないの声

土曜日でしたが、うっかり平日と勘違いして、学校に電話をしてしまったことがあります。ところが誰もいないはずなのに、先生が電話に出られました。休日にも関わらず、出勤されていたのです。つい「ご苦労さま」と言っていました。

夜の9時過ぎに学校の側を通りました。職員室は電灯がともっていてこうこうとしていました。何人かの人影が見えました。この時間になっても、まだ帰宅されていないのです。

教師はいま子どもたちへの教育指導だけでなく、大量の事務作業に追われています。問題事象が起こると対応に追われます。子どもたちと触れ合う時間や教材研究する時間がもてないと、深刻な悩みを聞きます。超多忙な毎日を送っているのが現実です。「自分の時間」が犠牲になっています。

「仕事が終わらない」という声をたびたび聞きます。確かに教育の仕事には終わりがありません。すべてを終えてから帰宅するとなると、いつまでたっても帰れなくなります。時間をかければよい仕事ができるということでもないようです。

疲れてくると、誰でも能率が悪く

なったりミスをしたりすることもあります。このようなときは、生活のスタイルや気持ちを「オンからオフへ」切り替えるタイミングだといえます。

その日の仕事の量を決めるのではなく、終わる時間(退勤時刻)を決めて仕事をできるだけ能率的に進めるようにします。そのためには、仕事を周囲の人たちと分担する。同僚の経験や蓄積や成果物に学ぶ。先を見て段取りを立てるなど、効率的に事務処理する能力が求められます。

自宅に持ち帰って仕事をこなしている人もいます。やむを得ないこともあります。できるだけ学校で済ませることを心掛けるようにします。

これによって、「オンからオフへ」の切り替えが可能になり、「自分の時間」がもてるようになります。

## 心と体のリフレッシュを

家庭では、生み出された時間をできるだけ、仕事と直接関係のないことに取り組みます。ポイントは趣味を生かすこと、好きなことに取り組むことです。オフに切り替え、自由に使える時間がつくられても、その時間を有効に使わなければもったいないことになります。もちろん「何もしないことをする」という時間の使い方もあります。

土曜日や日曜日など休日には、ハイキングや小さな旅に出かける。スポーツを楽しむ。好きなジャンルの図書を読む。美術館や博物館や植物園などに行く。音楽を鑑賞する。家の庭の手入れをする。野菜を育てるなど、日ごろはなかなかできない「非日常」的なことを体験するようにします。

「医者こうやの不養生しよぼかま」、「紺屋こうやの白袴しろぼかま」という故事があります。いずれも、他人のことばかり気に留めていて、自分のことには無頓着であることを戒めているものです。教師は学校において、通ってくる子どもたちを指導することに専念しています。だれにでも個々の家庭生活があります。「オフの時間」をつくって自分のことや家族のために使うよう努めなければ、生活が「不養生」になったり、「白袴」を着ることになってしまったりします。

「オフの時間」をつくって、非日常的なことに取り組むと、一時的であれ仕事のことを忘れます。このことによって心や体がリフレッシュし、その後の仕事に取り組む意欲にもつながります。よい仕事をするためには「オンとオフ」の使い分けが大切です。

これまで当たりまえのこととして行ってきた働き方を工夫改善し、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を目指したいものです。

# 学校の危機管理

## 先手必勝—予防能力

学校が遭遇する事故や事件、災害などは、起こりうる可能性を予め予知することができます。例えば、鉄棒からの落下事故、理科の実験場面での事故、登下校での交通事故、給食室からの火災などです。台風や豪雨などもある程度予測することができます。

そのため、これらに対しては、万が一の発生に備えて、対処方法（マニュアル）が作成されています。避難のための訓練なども行われています。

事故や災害の発生時にどう身を守るかという対処は重要ですが、それ以上に大切なことはこれらの事故などをどうしたら起こらないようにするかということです。「予防」のための術や能力こそが最大の危機管理といえます。

私たちは、病気になったりけがをしたりしたら、医師の診察が必要になります。治療や薬などを求めなければなりません。しかし、できれば病気にならず、けがをしなれば、そのような治療は必要ありません。

毎日の生活において危機管理することは、事故や災害に遭遇しないこと、起こらないようにすることが何より重要です。これは発生時に対する備えではなく、発生しないようにする備えです。求められるのは先手必勝です。

そのためには、起こりうる危機的な状況を予め察知したり予測したりして未然に防止することです。予知・予防能力を発揮することは危機的状況をつくらないために重要なことです。



# 教育の動向

## オリンピック・パラリンピック教育

文部科学省のオリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議は、7月21日に「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」と題する最終報告書を取りまとめました。

オリンピック・パラリンピック教育の目的は、オリンピック・パラリンピックを題材に次の3つのことを推進することだとしています。

- ① スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
- ② 障害者を含めた多くの国民の主体的な参画（「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」）の定着・拡大

③ 児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成

本教育の具体的な内容は、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」の2つがあげられています。前者には、オリンピック・パラリンピックに関する知識、選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み、オリンピック・パラリンピックの負の部分と改善に向けた取り組みについて学ぶこと、後者はスポーツの価値を学ぶことが考えられるとしています。

今後、各小学校においては、子どもの発達段階や地域の実情などを考慮して、報告書を踏まえた具体的な指導内容を設定することが求められます。

## シリーズ 研究授業の目 12のポイント 2

### 本時のめあては何か

授業に当たっては、子どもが目的意識をもって、主体的に取り組むようにすることが大切です。そのために「本時のめあて」を設定します。めあてとは、今日の授業で何に取り組むのか。どのようなことを明らかにするのかなど学習の目的のことです。「めあて」の無い授業は論外です。

めあては、教師のほうから「今日のめあては、○○○です」と、一方的に提示することもあります。子どもたちは受け入れてくれます。しかし、できれば子どもたちが自ら「どうしてだろうか」「どうしたらよいか」などと問題意識をもつようにすることが大切です。その後の学習に対してより主体的に取り組むようになるからです。

子どもを含め、私たちは既にもって

いる知識や見方では解釈できない「意外性のある事実」と出会うと、「どうしてだろう」と疑問や課題をもつ傾向があります。ある活動に取り組んで、期待しているようにいかないと、「どうしてかな」と疑問をもちます。めあてを設定するときには、どのような事実と出会わせるか。どのような活動をとおして疑問や課題を意識させるかがポイントになります。

ただ、子どもたちが疑問に感じたことであれば、何でもめあてになるわけではありません。授業には「目標（ねらい）」があるからです。めあてにもとづいて学習を進めていくと、目標が実現される関係でなければ、授業として成立したことはなりません。

授業者は、子どもたちにめあてをどう意識させるか。研究授業において、多くの参加者が注目するところです。

## INFORMATION

### 大好評 新学年へのパスポート ○年へGO!



〈漢字・計算〉 〈国語〉 〈理科〉 〈社会〉  
教科で選べるしあげ教材 ※写真は4年の例 ぶんけい

## 編集後記

OECDが2013年に行った国際教員指導環境調査(TALIS)によると、日本の教員の1週間当たりの勤務時間は参加国最長でした(日本53.9時間、参加国平均38.3時間)。うち事務業務にあてる時間は、日本5.5時間、参加国平均2.9時間でした。先生方の多忙な日常がうかがえます。(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2016年12月1日